

人物で語る 日本デンマーク

27 山本茂吉

山本茂吉は、一八六〇年（万延元年）一月
茂十・リサの長男として大岡村（現安城市大
岡町）に生まれた。幼少のころより厳しく育
てられ、誠実温厚な人間として成長した。村
内の寺子屋（榎堂）に通い、読み・書き・算
術などの一般教養を身につけた。

茂吉は、十三歳で元服の式を挙げると大岡
若衆連に入った。若衆連に入ると村から一人
前の人間として認められ、戸主の代理を務め
ることもあった。若衆連の中でも次第に頭角
を現し、神社祭礼時の神楽囃子や行事などで
指導的役割を果たした。やがて村内の役職に
もつくようになり、尋常小学大岡学校の新築
移転（大岡町白山神社の一角）にも尽力した。
一九〇〇年（明治三十三年）九月に産業組
合が成立すると、碧海郡内の村々にも産業組
合が設立されるようになった。碧海郡で最初
の産業組合は、一九〇二年（明治三十五年）に
設立された小川信用組合（現安城市小川町）
であった。

安城市最初の産業組合は、一九〇九年（明
治四十二年）二月に設立された福釜信用組合で
あった。続いて一九一〇年（明治四十三年）一
月には箕輪信用購買組合が設立された。

茂吉は、住民の生活を少しでも向上させる
ために、大岡にも産業組合をつくりたいと真
剣に考えるようになった。そこで、大岡の有
力者であった細井伸太郎や山本竹四郎と相談
し、村民の理解や協力を得て、一九一一年（明
治四十四年）四月に大岡信用購買組合を設立し
た。当時、大岡は戸数六十戸ほどで組合員は
四十五人であった。茂吉は、組合員に推され
て初代組合長になったが、当初は組合員が少
ないこともあって経営も苦しかったという。
以後一九二五年（大正一十四年）までの十五年
間、組合長として経営を軌道に乗せ発展させ
た。組合長退任後は顧問として、組合の健全
な経営のために指導力を発揮した。

この間、茂吉は碧海郡購買販売利用組合の
設立にも参画し、産業組合の発展に尽くした。



山本茂吉像
（あいち中央農業協同組合平貴
支店内）

一九一九年（大正八年）ごろ、茂吉らの勧
めによって山崎・高木・北山崎が相次いで組
合に加入し、組合員が一挙に百七十人に増加
し、地域が拡大したこともあって、組合名を
平貴信用購買販売利用組合と改称した（『大岡
の郷』）。組合員が大幅に増えたことで経営基
盤も充実し、経営状態もずいぶん改善された。
一九三二年（昭和七年）末の統計によれば
組合員百七十八人、出資金七、五三〇円、総
純益八、七二八円、剰余金八四五円となっ
ており健全な経営であったことを示している。

一九三五年（昭和一〇年）には東別所・西
別所・別郷が新たに加わり、組合員も三百人
を超え経営もさらに安定した。次いで、一九
三七年（昭和十二年）には二階建ての新事務
所、同四一年（昭和十六年）には農業倉庫が
それぞれ建設され、経営は一層充実したも
のとなった。

茂吉は、組合長のほか平貴村村長、安城市
農会副会長、明治用水議員などの要職につき、
郷土の発展、農村の経済向上のために尽力し
た。その功績が認められ、安城市農会や大日
本農会などから表彰された。

茂吉は、一九四〇年（昭和十五年）一一月
に八十一歳で没したが、一九六三年（昭和三
八年）九月、安城市農業協同組合平貴支所内
に胸像が建てられ、茂吉の業績は後世に伝え
られている。

文 稲垣維晃